

2020年度 シラバス変更科目

情報文化学部 現代社会学科

目次

社会学理論Ⅰ	2
社会学理論Ⅱ	4
応用社会学Ⅰ	6
応用社会学Ⅱ	8
海外研修A	10
質的調査法	11
地域社会論	13
観光と地域	15
ツーリズム論	17
家族とジェンダー	19
社会福祉総論A	21
社会保障論	23
格差社会論	25
働くための社会学	27
アジア社会論 A	29
アジア社会論 B	31

区 分	専門基礎科目	担当教員	小林 裕一郎		
授業科目	社会学理論 I				授業形態
英 訳	Theory of Sociology I				単独
配当年次	2 年次 前期	必選別	必修	単位数	2 単位
【授業の目的】 社会学の理論とは何かを学び、理論的な視点を用いて社会をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。					
【授業の到達目標】 1. 社会学の理論とは何かを理解する。 2. 社会学の理論を用いて自分の周辺で起きた出来事を説明できるようになる。					
【授業の概要】 社会学が現在に至るまでの歴史の中で蓄積してきた理論を、その理論が考え出された時代の社会的な背景を紹介しながら解説していく。またその理論を考えた人物についてもエピソードをまじえて解説する。基本的には授業は板書しながら進めるのでノートを忘れずに持参すること。板書を補足するためにプレゼンテーションソフトを使用し、必要に応じて関連資料を配布する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1 回 ガイダンス ○事前学修 シラバスを読んで授業内容を理解する。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 2 回 社会変動論① 三段階の法則・社会進化論 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 3 回 社会変動論② ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 4 回 社会変動論③ 社会的分業 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 5 回 社会的役割① 社会化・状況の定義 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 6 回 社会的役割② 役割期待・役割取得 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 7 回 社会的役割③ 社会的自己 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 8 回 中間まとめ ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 9 回 演技と行為① 印象操作・自己呈示 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 10 回 演技と行為② 儀礼的無関心 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。					

○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。	
第11回 社会的逸脱① ラベリング・スティグマ	
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。	
○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。	
第12回 社会的逸脱② 構築主義	
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。	
○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。	
第13回 社会的行為① 行為の四類型	
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。	
○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。	
第14回 社会的行為② 主意主義的行為理論	
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。	
○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。	
第15回 全体のまとめ	
○事前学修 これまでの授業の内容を整理し今回の授業に備える。	
○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを整理し授業内容をまとめる。	
期末試験	
【テキスト】	
使用しない。必要な資料は配布する。	
【参考書・参考資料等】	
奥村隆, 2014, 『社会学の歴史 I - 社会という謎の系譜 -』 有斐閣. 作田啓一・井上俊編, 2011, 『命題コレクション社会学』 筑摩書房.	
【成績評価の方法等】	評価が「合」
授業への参加の度合い(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)。	
【履修要件等】	

区 分	専門基礎科目	担当教員	小林 裕一郎		
授業科目	社会学理論Ⅱ				授業形態
英 訳	Theory of Sociology II				単独
配当年次	2年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位
【授業の目的】 社会学が学問として確立してから今に至るまでの社会学の理論を学び、社会をより多角的に理解できるようになることが本講義の目的である。					
【授業の到達目標】 1. 社会学的な思考力を身につける。 2. ひとつひとつの社会学理論が生まれた背景を理解する。 3. 社会学の理論的を使って社会を分析し、レポートが書けるようになる。					
【授業の概要】 古典的な社会学理論から現代的な社会学理論までの中で重要だと思われる理論を取り上げ、現在の私たちの社会生活と関連させながら説明していく。またその理論を考えた人物についてもエピソードをまじえて解説する。基本的には授業は板書しながら進めるのでノートを忘れずに持参すること。板書を補足するためにプレゼンテーションソフトを使用し、必要に応じて関連資料を配布する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1回 ガイダンス ○事前学修 シラバスを読んで授業内容を理解する。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 2回 文化的再生産① ハビトゥス ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 3回 文化的再生産② 文化資本 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 4回 法と社会① 支配の三類型 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 5回 法と社会② 官僚制の逆機能 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 6回 社会関係資本① 互酬性の規範 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 7回 社会関係資本② 社会的排除・社会的包摂 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 8回 中間まとめ ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 9回 コミュニケーション的行為 ○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					

<p>第10回 合理的選択理論</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第11回 ジェンダー論① シャドウ・ワーク</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第12回 ジェンダー論② 第二の性</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第13回 感情と社会① 文明化の過程</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第14回 感情と社会② 感情労働</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第15回 全体のまとめ</p> <p>○事前学修 これまでの授業の内容を整理し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを整理し授業内容をまとめる。</p>	
<p>期末試験</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。必要な資料は配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>奥井智之, 2010, 『社会学の歴史』 東京大学出版会.</p> <p>長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007, 『社会学』 有斐閣.</p>	
<p>【成績評価の方法等】</p> <p>授業への参加の度合い(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)。</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p>	

区 分	専門基礎科目	担当教員	小林 裕一郎		
授業科目	応用社会学 I				授業形態
英 訳	Applied Sociology I				単独
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】					
本講義では2年次までに身につけた社会学的な思考力を応用し、社会現象について一步踏み込んで考えていく。具体的には、大衆という近代の産物が与えた社会への影響について社会学的な観点から理解することを目指す。					
【授業の到達目標】					
1. 大衆と社会との関係について理解する。 2. 自分が興味ある社会現象を大衆という視点から切り取り、レポートが書けるようになる。					
【授業の概要】					
まず前半はドイツを中心とした大衆社会論について見ていく。特に大衆が全体主義運動の原動力となる過程に注目して解説を行う。ある程度大衆についての知識が身についた後半は、大衆の観光行動が大きな影響を与えている観光社会について観光社会学的な視点から考えていく。基本的には授業は板書しながら進めるのでノートを忘れずに持参すること。板書を補足するためにプレゼンテーションソフトを使用し、必要に応じて関連資料を配布する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1回 ガイダンス					
○事前学修 シラバスを読んで授業内容を理解する。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 2回 大衆とは何か					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 3回 国民的性格形成と大衆(N.エリアス)					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 4回 全体主義運動と大衆① 歯車としての大衆(H.アーレント)					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 5回 全体主義運動と大衆② 大衆と暴力(T.W.アドルノ・M.ホルクハイマー)					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 6回 権威主義的性格と大衆(E.フロム)					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 7回 複製技術と大衆(W.ベンヤミン)					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 8回 中間のまとめ					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					
第 9回 観光社会学とは何か					
○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。 ○事後学修 授業で使用した配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。					

<p>第10回 大衆観光行動① 観光のまなざし</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第11回 大衆観光行動② 観光資源と観光行動</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第12回 大衆観光行動③ ノスタルジアと観光行動</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第13回 大衆観光行動④ 観光公害と大衆</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第14回 大衆観光行動⑤ ダーク・ツーリズム</p> <p>○事前学修 前回の授業の内容を理解し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを用いて授業内容を振り返る。</p>	
<p>第15回 全体のまとめ</p> <p>○事前学修 これまでの授業の内容を整理し今回の授業に備える。</p> <p>○事後学修 授業で使用了配布資料やノートを整理し授業内容をまとめる。</p>	
<p>期末試験</p>	
<p>【テキスト】 使用しない。必要な資料は配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 内海博文, 2014, 『文明化と暴力—エリアス社会理論の研究—』東信堂. 安村克己・堀野正人・遠藤英樹・寺岡伸悟編, 2011, 『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房.</p>	
<p>【成績評価の方法等】 授業への参加の度合い(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)。</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p>	

区 分	専門基礎科目	担当教員	川越 道子		
授業科目	応用社会学Ⅱ			授業形態	
英 訳	Applied Sociology Ⅱ			単独	
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 2年次までの社会学の学習をベースとして、社会学的視点をより広範に応用することにより、様々な社会問題について考察を深めることを目的とする。					
【授業の到達目標】 社会学や他の学問領域の理論や手法を用いて、身近な社会問題を分析する力とその問題解決に向けた思考力と実践力を身につける。					
【授業の概要】 私たちの日常生活に遍在する暴力や力関係について、「マイノリティ」「戦争」「見えない差別」「労働」などのテーマを取り上げて、理論面と実践面から理解を深める。 この授業では、講義と並行して、グループワークやディスカッションを取り入れた受講生参加型の授業を行う。積極的かつ主体的に授業に参加すること。					
【授業計画と準備学修】					
第 1回 イン트로ダクション ○事前学修 シラバスに目を通しておく ○事後学修 イン트로ダクションでの内容について理解を深めておく					
第 2回 マイノリティとは誰か ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 3回 マイノリティとマジョリティ①：グループワークとディスカッション ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 4回 マイノリティとマジョリティ② ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 5回 平和と暴力①：グループワークとディスカッション ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 6回 平和と暴力②：戦争について考えるⅠ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 7回 平和と暴力③：戦争について考えるⅡ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 8回 中間まとめ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 9回 差別と平等①：グループワークとディスカッション ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 10回 差別と平等②：見えない差別Ⅰ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく					

○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 1回 差別と平等③：見えない差別Ⅱ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 2回 対立を解決するには①：グループワークとディスカッション ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 3回 対立を解決するには②：労働を考えるⅠ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 4回 対立を解決するには③：労働を考えるⅡ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 5回 まとめ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
【テキスト】 特に指定しない。事前に資料を配布する。	
【参考書・参考資料等】 ・ヨハン・ガルトゥング『ガルトゥング平和学の基礎』法律文化社(2019) ・今野晴貴『ブラックバイトー学生が危ない』岩波新書(2016)	
【成績評価の方法等】 授業への取り組み (30%) 各回の課題提出 (30%) 最終レポート (40%) で評価する。	評価が「合」
【履修要件等】	

区 分	フィールド系科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	海外研修A					授業形態
英 訳	Overseas Training Program A					単独
配当年次	2年次	通年	必選別	選択	単位数	4単位
【授業の目的】 タイや東南アジア社会について学んだうえで、実際に現地へ赴きさまざまな人びとと出会い、その暮らしを知るという経験を通じて、グローバル化する現代を生きるためのコミュニケーション能力を高める。						
【授業の到達目標】 東南アジアやタイ社会の複雑さや多様性、日本とのかかわりなどを具体的に理解し、異文化コミュニケーション能力を高める。						
【授業の概要】 夏季休暇期間中にタイでの海外研修を実施する。それに向けて、前期授業ではタイ社会について事前学習を行う。また研修後の後期授業では、その経験を振り返り、レポートにまとめる。						
【授業計画と準備学修】 本授業は、講義と研修から構成されており、第1回～15回は主に前者の形式で学修し、第16回～30回は主に後者の形式で学修をする。具体的には、前期期間中はタイ社会や異文化理解について学びながらタイ渡航の準備を行う。夏休み期間中に10日間ほどのタイ研修を実施し、後期期間中にその振り返りやまとめを行う。 第 1回 ～ 第15回 講義 ・タイ社会や異文化について学ぶ ・渡航準備 ・海外研修 第16回 ～ 第30回 ・振り返り ・まとめ						
【テキスト】 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料等は配布する。						
【参考書・参考資料等】 授業の中で適宜紹介する。						
【成績評価の方法等】 事前学習の取り組み (30%)、タイ海外研修での取り組み (40%)、帰国後のレポート提出 (30%)。						評価が「合」
【履修要件等】 研修費用は13～14万円程度になる予定。研修内容と費用の詳細については、第1回目のガイダンスで説明する。						

区 分	フィールド系科目	担当教員	川越 道子		
授業科目	質的調査法				授業形態
英 訳	Qualitative Research Method				単独
配当年次	2 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 社会学における質的調査の意義と、さまざまな質的調査法に関する基本的事項、具体的な質的調査の手法、質的データの分析方法の習得を目的とする。					
【授業の到達目標】 質的調査の概要を理解し、フィールドワークによる参与観察、取材、インタビューなどを通して質的データを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を身につける。					
【授業の概要】 フィールドワーク、参与観察、インタビューなどの質的調査についての企画、設計から調査票・質問表の作成、調査の実施、報告までの一連の方法と、ライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グランデッドセオリー、ビジュアルデータ分析などの質的データの分析法について、講義と実習を通して解説する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1 回 インTRODクシヨン：質的調査とは何か ○事前学修 シラバスに目を通しておく ○事後学修 INTRODUCTIONでの内容について理解を深めておく					
第 2 回 質的調査の目的と方法：量的調査との相違 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 3 回 質的調査の種類：フィールドワーク、参与観察、インタビュー調査 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 4 回 質的調査の分析①：ライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 5 回 質的調査の分析②：内容分析、グランデッドセオリー、ビジュアルデータ分析 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 6 回 質的調査の実践①：現状把握と課題発見 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 7 回 質的調査の実践②：調査の企画と調査の設計、仮説構成 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 8 回 質的調査の実践③：調査票・質問表の作成 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 9 回 質的調査の実践④：予備調査の実施 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する					
第 10 回 質的調査の実践⑤：調査の実施 ○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する					

○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する	
第11回 質的調査の実践⑥：質的データのとりまとめ	
○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する	
○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する	
第12回 質的調査の実践⑦：質的データの分析（質的データ分析ソフト使用含む）	
○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する	
○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する	
第13回 質的調査の実践⑧：報告書の作成、プレゼンテーション・ソフトによる報告	
○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する	
○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する	
第14回 調査・研究倫理について	
○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する	
○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する	
第15回 まとめ	
○事前学修 事前の配布資料により授業内容を把握する	
○事後学修 授業中に指示された課題に取り組み、配布資料の内容を復習する	
【テキスト】	
特に指定しない。事前に資料を配布する。	
【参考書・参考資料等】	
<ul style="list-style-type: none"> ・岸政彦『質的社会調査の方法－他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア（2016） ・工藤保則ほか『質的調査の方法 [第2版]』法律文化社(2016) ・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社(2010) 	
【成績評価の方法等】	評価が「合」
各回の課題提出（50%）と調査票・報告書の内容（50%）で評価する。	
【履修要件等】	
社会調査論ⅠまたはⅡのいずれかの単位を取得したか履修中であることが望ましい。	

区 分	まちづくり科目	担当教員	川越 道子			
授業科目	地域社会論					授業形態
英 訳	Region Sociology					単独
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】						
人口減少、地域経済の衰退などの現代日本の地域社会の実態や課題を理解し、持続可能な地域社会の創生について思索する力の習得を目的とする。						
【授業の到達目標】						
現在の日本の地域社会の実態・課題、および持続可能な地域創生の実践について理解を深めるとともに、自分の「ふるさと」の課題を認識し、地域課題の解決策を立案する力を身につける。						
【授業の概要】						
①現在の地域社会の課題をふまえた上で、②国内外のローカリゼーションの動向やSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みについて学び、③最終的には受講生の「ふるさと」の課題と課題の解決策を思索する。 この授業では、講義と並行して、教員、受講生同士対話をしながら進める。積極的に授業に参加し、主体的に思考すること。						
【授業計画と準備学修】						
第 1回 イン트로ダクション ○事前学修 シラバスを読んでおく ○事後学修 イン트로ダクションでの内容について理解を深めておく						
第 2回 持続可能な地域社会とは ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 3回 地域社会の実態と課題①：人口減少社会の現在 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 4回 地域社会の実態と課題②：都市と地方 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 5回 地域社会の実態と課題③：地域産業の実態 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 6回 地域社会の実態と課題④：農山村の実態 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 7回 グローバリゼーションとローカリゼーション① ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 8回 グローバリゼーションとローカリゼーション② ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 9回 中間まとめ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む						
第 10回 持続可能な地域創生へむけて①：課題をとらえる ○事前学修 指示した資料に目を通しておく						

○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 1回 持続可能な地域創生へむけて②：声を聴く ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 2回 持続可能な地域創生へむけて③：対話する ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 3回 持続可能な地域創生へむけて④：発想する ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 4回 持続可能な地域創生へむけて⑤：多様な豊かさを学ぶ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
第1 5回 まとめ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む	
【テキスト】 特に指定しない。事前に資料を配布する。	
【参考書・参考資料等】 ・ 寛裕介『持続可能な地域のつくり方—未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治出版(2019) ・ ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ、辻真一『いよいよローカルの時代—「ヘレナさんの幸せの経済学」』大月書店(2009)	
【成績評価の方法等】 授業への取り組み (30%) 各回の課題提出 (30%) 最終レポート (40%) で評価する。	評価が「合」
【履修要件等】	

区 分	まちづくり科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	観光と地域					授業形態
英 訳	Tourism and Region					単独
配当年次	2 年次	前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 観光・ツーリズムと観光地の概要と歴史・現状および問題・課題について事例研究やフィールドワークを通じて学ぶ。						
【授業の到達目標】 1. 観光・ツーリズムに関する基礎的な知識を理解するとともに、観光地の取り組みや問題点・課題を探求できるようになる。 2. 世界遺産検定、旅行地理検定、旅行業務取扱管理者試験など観光関係の検定や資格に挑戦できるようになる。						
【授業の概要】 観光・ツーリズムに関する基礎的な用語や理論などを理解し、観光地や観光産業の歴史・現状および問題・課題について、広島県、日本国内、海外の多様な観光地の事例研究や近隣観光地のフィールドワークを通じて学ぶ。 また、観光・ツーリズム地域づくり計画や旅行計画の作成にも取り組む。 さらに、定期的実施される世界遺産検定、旅行地理検定、旅行業務取扱管理者試験などの観光に関する資格等に段階的に取り組んでいけるようにする。						
【授業計画と準備学修】						
第 1回 オリエンテーション ○事前学修 シラバスの内容を理解して授業に臨む ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 2回 観光・ツーリズムの概念と観光学の体系 ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 3回 多様な観光地 ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 4回 広島の観光地Ⅰ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 5回 広島の観光地Ⅱ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 6回 日本の観光地Ⅰ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 7回 日本の観光地Ⅱ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						
第 8回 世界の観光地Ⅰ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容をふり返る						

<p>第 9回 世界の観光地Ⅱ</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>第10回 観光・リゾート開発</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>第11回 観光・ツーリズムと地域づくり</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>第12回 観光フィールドワークⅠ</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>第13回 観光フィールドワークⅡ</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>第14回 観光フィールドワークⅢ</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>第15回 まとめ</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を繰り返る</p>	
<p>期末試験</p>	
<p>【テキスト】 使用しないが、資料を事前に配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 授業で適宜紹介する。</p>	
<p>【成績評価の方法等】 毎回の課題（40％）と試験（60％）を基本に総合的に評価する。</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p>	

区 分	まちづくり科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	ツーリズム論					授業形態
英 訳	New Tourism					単独
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】						
<p>観光に係る分野のうちツーリズムについてその概要と歴史・現状、問題・課題等について検討する。</p> <p>従来の観光地型の旅行とは異なった、テーマをもった体験型の新しい旅行とそのシステムとして展開するようになった、産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、ロングステイなどのニュー・ツーリズムについて、余暇的生活と地域づくりの観点で、事例研究やフィールドワークを通じて学ぶ。</p>						
【授業の到達目標】						
<p>1. ニュー・ツーリズムに関する基礎的な知識を理解するとともに、生活者と地域の取り組みや問題点・課題を探求できるようになる。</p> <p>2. 世界遺産検定、旅行地理検定、旅行業務取扱管理者試験など観光関係の検定や資格に挑戦できるようになる。</p>						
【授業の概要】						
<p>観光学分野の体系におけるツーリズムの位置づけを理解し、とくに環境にかかわるエコツーリズムや農村・地域にかかわるグリーンツーリズムを取り上げケーススタディを行い、ニュー・ツーリズムの現場も訪問する。</p> <p>ニュー・ツーリズムに関する基礎的な用語や理論などを理解し、ニュー・ツーリズムとそれに取り組む地域社会の歴史・現状および問題・課題について、広島県、日本国内、海外の多様なニュー・ツーリズムの事例研究やフィールドワークを通じて学ぶ。</p> <p>また、ニュー・ツーリズム地域づくり計画や旅行計画の作成にも取り組む。</p> <p>さらに、定期的実施される世界遺産検定、旅行地理検定、旅行業務取扱管理者試験などのニュー・ツーリズムに関する資格等に段階的に取り組んでいけるようにする。</p>						
【授業計画と準備学修】						
<p>第 1回 オリエンテーション ― 観光とニュー・ツーリズム</p> <p>○事前学修 シラバスの内容を理解して授業に臨む</p> <p>○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る</p>						
<p>第 2回 ニュー・ツーリズムの概念と地域づくり</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る</p>						
<p>第 3回 ツーリズムの多様な取り組み</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る</p>						
<p>第 4回 産業観光</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る</p>						
<p>第 5回 エコツーリズム</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る</p>						
<p>第 6回 グリーンツーリズム</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p> <p>○事後学修 ふり返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る</p>						
<p>第 7回 広島のニュー・ツーリズム</p> <p>○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく</p>						

○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第 8回 日本のニュー・ツーリズム ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第 9回 世界のニュー・ツーリズム ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第10回 生活とツーリズム ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第11回 ニュー・ツーリズムと地域づくり ○事前学修 まとめ事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第12回 フィールドワークⅠ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第13回 フィールドワークⅡ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第14回 フィールドワークⅢ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
第15回 まとめ ○事前学修 事前配付資料を読み、関連する内容について調べておく ○事後学修 繰り返りの課題に取り組み、授業後にも学修内容を振り返る	
期末試験	
【テキスト】 使用しないが、資料を事前に配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業で適宜紹介する。	
【成績評価の方法等】 毎回の課題（40％）と期末試験（60％）を基本に総合的に評価する。	評価が「合」
【履修要件等】 「観光と地域」(2年次開講)の単位を取得していることが望ましい。	

区 分	生活と福祉科目	担当教員	相田 美穂			
授業科目	家族とジェンダー					授業形態
英 訳	Family Sociology and Gender Studies					単独
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 性別や家族など生活の中で「当たり前」とされているものの成り立ちや意味を、ジェンダーと呼ばれるものの見方を通じて考えていきます。						
【授業の到達目標】 ジェンダーという視点から性別と家族を捉え直し、自分の考えを人に説明することができる。						
【授業の概要】 実社会での出来事や映画などの創作物を事例として、性別や家族についてジェンダーと呼ばれるものの見方で考えていきます。						
【授業計画と準備学修】						
第 1回 講義ガイダンス ○事前学修 家族や性別について自分自身がもっている考えを整理しておく ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 2回 家族のイメージ：「普通の家族」「理想の家族」とは？ ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 3回 現代の家族（1）：家族を形成する最初の契機 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 4回 現代の家族（2）：結婚の自由 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 5回 現代の家族（3）：選択肢としての結婚 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 6回 現代の家族（4）：離婚観の変容 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 7回 現代の家族（5）：家族法と家族の多様化 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 8回 現代の家族（6）：生殖という機能と家族 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第 9回 ジェンダーという考え方（1）：性別という区分は当たり前？ ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						
第10回 ジェンダーという考え方（2）：それぞれの性別による生きづらさ ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。						

<p>第11回 ジェンダーという考え方(3) : やるべき事は性別で決まっている？ ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。</p>	
<p>第12回 ジェンダーという考え方(4) : 結婚と恋愛の関係 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。</p>	
<p>第13回 ジェンダーという考え方(5) : 「男らしさ」は呪縛である？ ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。</p>	
<p>第14回 ジェンダーの視点で家族を考えると ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。</p>	
<p>第15回 講義のまとめと質疑応答 ○事前学修 講義時に指示した資料に目を通し、質問事項があれば整理しておく。 ○事後学修 講義内容を整理し、分からない点は自分で調べる。</p>	
<p>期末試験 なし</p>	
<p>【テキスト】 なし</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 小平麻衣子・氷見直子, 2006, 『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』新水社</p>	
<p>【成績評価の方法等】 講義への取組と小レポート(50%)、期末レポート(50%)に基づき総合的に評価します。</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】 講義では映像資料を使用します。 私語やスマートフォンの使用等、講義の妨げとなる行為には厳しく対応します。</p>	

区 分	生活と福祉科目	担当教員	松田泰			
授業科目	社会福祉総論A				授業形態	
英 訳	Introduction to social welfare					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の目的】						
社会福祉の制度体系とそれを形作ってきた運動や歴史を学び、私たちの生活とのつながりの深さを確認する。						
【授業の到達目標】						
生活障害の理解とそれへのサポートの在り方の習得						
【授業の概要】 、社会福祉の歴史的系譜をたどり、社会福祉を必然化・発展させた生活障害の実態的变化を探ってみます。また、現代の生活障害の姿を明らかにしながら、それに対応する施策・取り組みとしての社会福祉の現況や課題について考え合ってみます。とりわけ障害者福祉の現場で起こっていることを事例的に学びながら、それへの対応について考えあてていきます。						
【授業計画と準備学修】						
第 1回 オリエンテーション 社会福祉法人あさみなみの紹介とこれから学ぼうとすること ○事前学修 社会福祉法人あさみなみのホームページを開いてみてください。 ○事後学修 作業所運動の歴史を振り返ってみる。						
第 2回 「恵まれない人たちに愛の手を」から「私たちのことを私たち抜きで決めないで」まで ○事前学修 日本国憲法の成立前とその後の社会福祉のありようがどう変化したのか考えてきて ○事後学修 日本国憲法の精読						
第 3回 現代社会と福祉問題（障害者問題を中心に） ○事前学修 相模原やまゆり園事件について ○事後学修 なぜ障害者は排除されてきたのかを考える。						
第 4回 福祉制度の成立の根拠と背景 1 障害者福祉 ○事前学修 身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の成立年の違いを調べてみよう。 ○事後学修 1回目講義でふれた小規模作業所運動と成立当初の障害者福祉制度との比較をしてみよう						
第 5回 福祉制度の成立の根拠と背景 2 高齢者福祉 ○事前学修 老人福祉法の成立年（1963年）当時、日本で起こった出来事を調べてみる。 ○事後学修 戦後の家族構成の変化と就業形態の変化について理解する。						
第 6回 福祉制度の成立の根拠と背景 3 児童福祉・母子福祉 ○事前学修 児童福祉法（1947年）当時の日本の社会状況を調べてみる。 ○事後学修 児童憲章を読み、その理念と今の子どもたちのおかれている状況を比較してみる。						
第 7回 福祉制度の成立の根拠と背景 4 精神障害者福祉 ○事前学修 自宅監置といった精神障害者のおかれてきた人権侵害の歴史を調べてくる。 ○事後学修 精神障害者福祉の現状を他の障害者福祉と比較してみる。						
第 8回 戦後の社会福祉運動の発展と歴史（障害者運動を中心に） ○事前学修 就学免除という義務教育からも排除された障害児のおかれた歴史を振り返る。 ○事後学修 障害者基本法・障害者差別解消法・障害者権利条約にあたってみる。						
第 9回 障害者支援制度の概要 障害者総合支援法1 ○事前学修 措置制度に基づく2006年以前の障害者福祉制度について調べてくる。 ○事後学修 措置制度と契約制度の違いについて考察してみる。						
第10回 障害者支援制度の概要 障害者総合支援法2 ○事前学修 障害者総合支援法のパンフレットをインターネットから引き出し、目を通す。 ○事後学修 総合支援法下で起こっている障害者の生活問題について調べる。						

<p>第11回 高齢者支援制度の概要 介護保険制度1</p> <p>○事前学修 介護保険制度の概要にあたっておく。</p> <p>○事後学修 介護保険制度の社会保険としての特性について検討する。</p>	
<p>第12回 高齢者支援制度の概要 介護保険制度2</p> <p>○事前学修 現金給付と現物給付との違いについて考察してみる。</p> <p>○事後学修 事例のケアプラン作りに挑戦 レポート</p>	
<p>第13回 生活障害をもたらすもの 生活を構成する3拠点</p> <p>○事前学修 自身の生活する範囲とそこで行う行為を前3日程度記録してみる。</p> <p>○事後学修 生活障害とは何か、ICFを素材として考察してみる。</p>	
<p>第14回 暮らす権利・働く権利・余暇の権利を保障するために</p> <p>○事前学修 暮らす・働く・余暇を満喫するためには何が必要なのか考えてみる。</p> <p>○事後学修 あたりまえの人の生活と社会福祉との関係を考察する。</p>	
<p>第15回 社会福祉は誰が担うのか 供給主体について考える</p> <p>○事前学修 社会的共通資本についてググってみてください。</p> <p>○事後学修 講座全体を通じて気づいたこと・特に印象に残ったことをまとめてください。レポート</p>	
<p>期末試験 試験は実施しません。レポートを確実に提出してください。</p>	
<p>【テキスト】 新現代障害者福祉論 鈴木勉・田中智子編 法律文化社</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 「このまちで生きる」 あさみなみふりかえり隊 あいり出版</p>	
<p>【成績評価の方法等】 レポート 50 出席 30 日常受講態度 20</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p>	

区 分	生活と福祉科目	担当教員	松田泰			
授業科目	社会保障論					授業形態
英 訳	Social security					単独
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の目的】						
社会保障の理念や考え方・発生の経緯やその発展の歴史を振り返るとともに、現代の社会保障の仕組みと法制を学びます。						
【授業の到達目標】						
社会保障理念の把握 公的扶助制度や社会保険制度並びに社会福祉諸制度の理解と把握						
【授業の概要】						
日本国憲法は国民に健康的・文化的で最低限度の生活を営む権利を認めています。この権利を実現するため公的に準備された社会政策を総称して社会保障と呼びます。さまざまな事例を検証しながら、私たちが生きていくためにどんな政策や仕組みが準備されているのか学んでみましょう。						
【授業計画と準備学修】						
第 1回 オリエンテーション・・・社会保障と私たちの暮らし						
○事前学修 自身のライフサイクルを振り返り、また展望して生きにくさを感じた、感じるだろう場面を考察する。						
○事後学修 生きにくさを支える社会的な仕組みについて考察してみる。						
第 2回 社会保障の沿革と展開						
○事前学修 ヨーロッパ 15～16 世紀の歴史的な出来事また日本の明治以前の社会経済体制について ちらりとでいいから探ってきてもらえると						
○事後学修 エリザベス救貧法の成り立ちとその意味						
第 3回 社会保障の意味するもの						
○事前学修 私たちにとっての社会の意味について考えてきてください。						
○事後学修 貧困ラインの設定とその科学性						
第 4回 社会保障の理念（1）その発展経過						
○事前学修 できれば高校時代に学習したロック・ルソーといった思想家の理論を読み返してきてもらえると						
○事後学修 基本的人権の意味とその発展について						
第 5回 社会保障の理念（2）ノーマライゼーション						
○事前学修 参考文献「ノーマライゼーションの理論と政策」の目次だけでも目を通してもらえれば						
○事後学修 「この子らを世の光に」の意味についての考察						
第 6回 社会保障の理念（3）国際人権規約と日本国憲法						
○事前学修 少なくとも日本国憲法 25 条を何回か読み返してみる。						
○事後学修 人権規約の規定と現在の人権状況との比較						
第 7回 社会保障の政策的意味 所得再配分とビルトインスタビライザー						
○事前学修 貧困と貧乏の違いについて考えてきてください。						
○事後学修 所得格差の現状とそれを是正するための方法について考察						
第 8回 社会保障の法体系						
○事前学修 セーフティーネットとはどんなものかググって来てください。						
○事後学修 セーフティーネットを構成する社会保障法全般について体系的な整理をしてください。						

<p>第 9回 社会保障を問い直してきた裁判闘争（1）朝日訴訟の意味するもの</p> <p>○事前学修 朝日訴訟の概要を調べてきてください。</p> <p>○事後学修 朝日訴訟の意味するものについてレポートをお願いします。</p>	
<p>第 10回 社会保障を問い直してきた裁判闘争（2）障害基礎年金不支給不当申し立て裁判</p> <p>○事前学修 障害基礎年金って何かググってきて下さい。</p> <p>○事後学修 年金制度の概要について再整理を</p>	
<p>第 11回 社会保障制度の目的・対象・給付内容概論（1）公的扶助</p> <p>○事前学修 自身の1か月の生活にどれくらいの額は必要なのかざっとでいいから計算して参加して。</p> <p>○事後学修 生活保護制度の原理・原則について再整理してください。</p>	
<p>第 12回 社会保障制度の目的・対象・給付内容概論（2）社会保険</p> <p>○事前学修 自身が病気やケガをして病院にかかるとき提示する保険証を眺めてきて</p> <p>○事後学修 社会保険のあらましの体系について整理してみる。</p>	
<p>第 13回 健康的・文化的最低限度の生活の意味するもの</p> <p>○事前学修 自身がイメージする健康的・文化的最低限度の生活を構想してみてください。</p> <p>○事後学修 社会が保障する健康的文化的最低限度の生活の意味を改めて整理してください。</p>	
<p>第 14回 社会保障の制度的体系と課題 人口動態や労働環境の変化</p> <p>○事前学修 日本の人口動態とその将来予想、また労働者の就労形態などについて調べてさんかして。</p> <p>○事後学修 社会保障の課題とその展望について考えてみてください。</p>	
<p>第 15回前期まとめ</p> <p>○事前学修 前期プリントをざっと眺め返してください。</p> <p>○事後学修 試験は行いませんので前期で学んだことや気づいたこと、課題と感じたことなどレポートとして提出してください。</p>	
<p>期末試験 試験は実施しません。</p>	
<p>【テキスト】 毎回配布するプリント</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 社会保障論社会福祉士養成講座テキスト 中央法規出版 ノーマライゼーションの理論と政策 鈴木勉 萌文社 日本が売られる 堤 未香 岩波新書</p>	
<p>【成績評価の方法等】 レポート50 日常課題25 受講態度 25</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】 自身の今の生活と将来の暮らしをきちんと見つめる姿勢で受講してください。</p>	

区 分	生活と福祉科目	担当教員	村澤 昌崇		
授業科目	格差社会論				授業形態
英 訳	Social Stratification Theory				単独
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】					
社会的な格差や不平等に関する社会学の理論や研究手法について学び、具体的なデータや事例から現状を把握する。					
【授業の到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会階層論の主要な理論や階層分析の主要な技法を習得する。 ・ 敗戦後から現在に至る日本の社会階層の状況を把握する。 ・ 「貧困」について考えるための多様な視点を獲得する。 					
【授業の概要】					
社会階層論の主要な理論や分析手法を学び、社会的な格差や不平等の状況を把握するとともに、貧困をめぐる問題に焦点を当て、実態を把握するとともに「貧困」とそれがもたらすものについて考察する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1 回 イン트로ダクション					
○事前学修 シラバスに目を通す					
○事後学修 授業の進め方や内容について疑問があれば質問できるようにする					
第 2 回 格差社会を考える視点					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 3 回 階層・階級と社会移動 (1)					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 4 回 階層・階級と社会移動 (2)					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 5 回 教育と地位達成 (1)					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 6 回 教育と地位達成 (2)					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 7 回 階層と社会意識					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 8 回 戦後日本の階層状況 (1)					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 9 回 戦後日本の階層状況 (2)					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					
第 10 回 非正規雇用					
○事前学修 指示した資料に目を通しておく					
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする					

<p>第11回 若者の貧困</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする</p>	
<p>第12回 子どもの貧困</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする</p>	
<p>第13回 女性の貧困</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする</p>	
<p>第14回 貧困と社会的排除</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする</p>	
<p>第15回 全体のまとめ</p> <p>○事前学修 これまでの授業についてもう一度復習しておく</p> <p>○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>自習用として以下を勧めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平沢和司『格差の社会学入門』北海道大学出版会（2014） ・西澤晃彦『貧困と社会』放送大学教育振興会（2015） 	
<p>【成績評価の方法等】</p> <p>授業中のレポート（30%）、学期末のレポート（70%）</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p> <p>なし</p>	

区 分	生活と福祉科目	担当教員	田中 慶子			
授業科目	働くための社会学					授業形態
英 訳	Sociology of Work					単独
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の目的】						
現代社会の労働の変容およびそれに伴う労働問題について労働社会学の観点から学び、「労働」「職業」のあり方や労働者の直面する問題について考察を深めることを目的とする。						
【授業の到達目標】						
現代社会における労働の変容およびそれに伴う労働問題を捉えるために、労働社会学・感情労働に関する社会学的知識を習得し、多角的な視点から「労働」「職業」のあり方と労働者の直面する問題について考察できるようになる力を身につける。						
【授業の概要】						
労働社会学・感情労働の概念について講述するとともに、労働問題に関する事例を取り上げ、現代社会における労働の変容とそれに伴う諸問題ならびに「労働」「職業」のあり方について具体的に考察する。						
【授業計画と準備学修】						
第 1回 インTRODクシヨン						
○事前学修 シラバスに目を通すこと						
○事後学修 授業の進め方やないようについて疑問があれば質問できるようにしておくこと						
第 2回 労働問題と社会政策に関する社会学的知識						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 3回 「非正規労働者」の拡大という社会問題						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 4回 「非正規労働者」の拡大という労働施策						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 5回 労働者の権利と資本の効率性						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 6回 非正規労働者の拡大、労働者の権利、資本の効率性における問題点						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 7回 対人サービス業における感情労働						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 8回 現代社会における「精神医療化」する労働						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 9回 過労死・過労自殺という労働災害						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						
第 10回 現代社会における感情管理とメンタルヘルス対策						
○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと						
○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする						

<p>第11回 個人化・リスク社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと ○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする 	
<p>第12回 ブラック企業と労働災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと ○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする 	
<p>第13回 現代社会における労働の変容と精神医療化する社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと ○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする 	
<p>第14回 現代社会における労働の変容と労働問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと ○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする 	
<p>第15回 総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示された課題に取り組んでおくこと ○事後学修 講義で学んだ内容をまとめ、疑問があれば質問できるようにする 	
<p>期末試験</p>	
<p>【テキスト】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配布する</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 田中慶子『どんなムチャぶりにも、いつも笑顔で?!』松籟社 アーリー・ホックシールド『管理される心——感情が商品となるとき』世界思想社 今野晴貴『ブラック企業——日本を食いつぶす妖怪』文春新書</p>	
<p>【成績評価の方法等】 課題レポートおよび小テスト（40%）と期末レポート（60%）で成績を評価する</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】 とくになし</p>	

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	川越 道子		
授業科目	アジア社会論 A				授業形態
英 訳	Asian Society A				単独
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 東南アジア地域の社会、文化、経済、歴史について基礎知識を得ることを目的とする。					
【授業の到達目標】 1. 東南アジアについて関心を高め、東南アジア地域に関する基礎知識を身につける。 2. 1をふまえて、経済成長、工業化、都市化と大きく変貌する東南アジアの現状について理解を深める。					
【授業の概要】 文化、経済、歴史など多方面において日本と関わりの深い東南アジア地域を取り上げ、東南アジア地域の自然環境、暮らし、歴史、経済をはじめ、工業化、都市化、それに伴う諸問題など近年の東南アジア社会の変化について解説する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1回 イン트로ダクション：私たちの暮らしとアジア ○事前学修 シラバスを読んでおく ○事後学修 イン트로ダクションでの内容について理解を深めておく					
第 2回 東南アジアの地理 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 3回 東南アジアの気候と暮らし ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 4回 東南アジアの言語と文化① ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 5回 東南アジアの言語と文化② ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 6回 東南アジアの歴史①：植民地支配からの独立 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 7回 東南アジアの歴史②：アジア太平洋戦争と日本 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 8回 中間まとめ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 9回 東南アジアの経済①：ASEAN の設立 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 10回 東南アジアの経済②：経済発展 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					

<p>第11回 東南アジアの経済③：工業化と都市化</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む</p>	
<p>第12回 東南アジアと人の移動①：環境問題</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む</p>	
<p>第13回 東南アジアと人の移動②：国際労働力労働</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む</p>	
<p>第14回 東南アジアと日本：グローバル化と観光</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む</p>	
<p>第15回 まとめ</p> <p>○事前学修 指示した資料に目を通しておく</p> <p>○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む</p>	
<p>【テキスト】 特に指定しない。事前に資料を配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーグ・テルトレ『地図で見る東南アジアハンドブック』原書房(2018) ・大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』大阪大学出版会(2014) 	
<p>【成績評価の方法等】 小テスト(30%) 課題提出(30%)、期末テスト(40%)で評価する。</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p>	

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	川越 道子		
授業科目	アジア社会論 B				授業形態
英 訳	Asian Society B				単独
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 ベトナムの社会、経済、歴史、文化について学び、ベトナム社会を多角的に考察することを目的とする。					
【授業の到達目標】 ベトナムの政治・経済・社会・文化に関する基礎知識を身につけ、ベトナム社会状況について自分の言葉で説明できるようにする。					
【授業の概要】 東南アジア諸国の中でも、近年、外交面、経済面で日本との協力体制をとりわけ緊密にしているベトナムを取り上げ、文献や視聴覚資料を使用して、ベトナムの歴史やベトナム社会の現状について解説する。					
【授業計画と準備学修】					
第 1回 イン트로ダクション ○事前学修 シラバスを読んでおく ○事後学修 イン트로ダクションでの内容について理解を深めておく					
第 2回 ベトナムの地理と気候 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 3回 ベトナムの言語と文化① ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 4回 ベトナムの言語と文化② ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 5回 ベトナムの社会構造と政治 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 6回 ベトナムの歴史①：植民地からの独立 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 7回 ベトナムの歴史②：冷戦下の分断 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 8回 中間まとめ ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第 9回 ベトナムの歴史③：ベトナム戦争 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					
第10回 ベトナムの歴史④：難民の発生 ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む					

<p>第11回 在外ベトナム人コミュニティ①：海外の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む 	
<p>第12回 在外ベトナム人コミュニティ②：日本の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む 	
<p>第13回 ベトナムの経済発展と諸問題①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む 	
<p>第14回 ベトナムの経済発展と諸問題②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む 	
<p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学修 指示した資料に目を通しておく ○事後学修 授業中に指示された課題に取り組む 	
<p>【テキスト】 特に指定しない。事前に資料を配布する。</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 ・今井昭雄・岩井美佐紀編『現代ベトナムを知るための60章 第2版』明石書店(2012)</p>	
<p>【成績評価の方法等】 授業への取り組み (30%) 各回の課題提出 (30%) 最終レポート (40%) で評価する。</p>	<p>評価が「合」</p>
<p>【履修要件等】</p>	